4位 『まどのむこうの くだものなあに？』

作／荒井真紀
1,210円（福音館書店）

★小さな窓のページを開けると、素晴らしいくだものが大きく現れます。絵の完成度の高さ、そして文字はなくても、みんなの心には言葉が自然に湧き出てきます。みんなで楽しめる、そんな素敵な絵本です。（14期　森井なほ子）

★とにかく荒井真紀さんの描くくだものがおいしそうなこと。そして、単純だけれど、前からだけでなく、後ろからも楽しめます。あらゆる年代の親子・家族で楽しい会話をしながら、読んでほしいです。（23期　岩本裕子）

★小さな窓から見える繊細できれいなフルーツの柄を見て、子どもも大人も夢中で何のフルーツか想像できる絵本です。後ろからも読めるのもポイントでした！（27期　足立美子）

★この絵本を開いたときの、子どもの顔を想像しただけで、ワクワクします。文字がほとんどない分、親子で自由に会話を楽しめますね。そのうえ、絵を読み解く楽しさを、大人がたっぷり味わえるのも魅力です。（4期　児玉ひろ美）

★よく知っているはずのくだものも、窓から見ると、あれ？ 何だろう？ と大人がわからなくて、子どものほうが先に答えがわかったり。窓からのぞいて見る感覚が新鮮です。表紙からも裏表紙からも読めます。（27期　山内知恵子）

5位 『うちのねこ』

作／高橋和枝
1,540円（アリス館）

★ネコを飼ったことのない私が、いつのまにかゆっくりと「うちのねこ」になっていく「ねこ」とともにいました。あたたかなまなざしに包まれたおはなしで、ゆったりとした時間がそこにはありました。（26期　廣瀬由美）

★私のもとにやってきたのらネコ。おくびょうでこわがりで凶暴。凹みながらもしんぼう強く待つ私。少しずつ少しずつ距離を縮めていく1匹とひとり。心を許すにはゆっくりとした時間が必要だと気づかせてくれます。（27期　若林やよい）

★表紙のネコの目が印象に残り、手にとりました。ネコは警戒心が強く、元のらネコはソファーの下で1カ月。ゆっくりゆっくり「大丈夫だよ」と時間をかけて生まれた信頼感が、愛にかわります。うちのネコがどんどんいとおしくなっていきます。（24期　竹之下和美）

★ネコでも人間でも心を開くには時間がかかるのです。あせりや上から目線はもってのほか、だまって寄り添うしかないのです。うちのネコもなでられるのは好きだけれど、抱っこは嫌い。人間だって自由がいいですよね。（22期　上田陽子）

6位 『とっています』

作／市原 淳
1,210円（世界文化社）

★気づいても、気づかなくても、とっても楽しい。「とっています」を言い合って、親子で盛り上がりましょう！　私は、年は「とっています」が、やわらかい心でいたいです。（19期　竹林淳子）

★シンプルな絵と文がいいです。相撲を「とっています」だけじゃない。あれも「とっています」、これも「とっています」って言うなぁ。笑いと発見がいっぱい♪　「とっています」だけでこれだけ楽しめるなんて。言葉っておもしろい！（24期　万年真衣）

★相撲をとりながら、チョウチョをとる発想がスゴイ！ と思ったら、かつらをとる、ピザをとるなんて破天荒すぎる展開に大爆笑。「あ、ちょっとふとっています」の変化球がいい。言葉遊びを親子で堪能できる絵本です。（22期　間宮成美）

★「とっています」。とても強そうなお相撲さんが、楽しく軽快に何かを「とっています」。日本の言葉っておもしろいですね。同音異義語がたくさんあって、ページをめくるたびにワクワクさせてくれます。（27期　増田穂里）

★「とっています」と言いたくなるし、見つけたくなるし、やってみたくなります。（23期　マッキー）

7位 『ねたふり ゆうちゃん』

作／阿部 結
1,320円（白泉社）

★子どもの、「私に気づいて」「私を見て」「私にかまって」「抱っこして」の思いがいっぱいいっぱい詰まっています。絵もやさしくてほっこり。わが子もよその子もみんないとおしくなり、ぎゅっとしたくなる絵本です。（26期　弘田恵子）

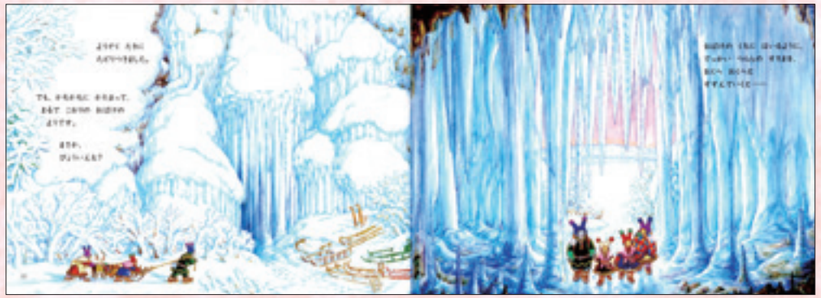
★子どもの「寝たふり」と、「寝たふり」を知っていながらのお母さんの対応をほほ笑ましく読みました。お母さんとのたわいのない、かけがえのない、幸せの時間がとても素敵でした。（4期　小森紀子）

★子どもって賢い！　一度味をしめたことは使わなくては。でも母は知っていますよ。（5期　朝田幸子）

★近年のおはなし会は低年齢化しており、そこをイメージした選定になりがち。やさしい言葉にふさわしい、やわらかな絵がいいです。お母さん（お父さん）のひざにのって、ゆっくりゆっくり読んでいく姿が浮かんできます。（21期　飯島貞夫）

★お母さんに抱っこしてもらいたくて、寝たふりをするゆうちゃん。わかっていながら、いつもやさしく抱っこしてくれるお母さん。母と娘のやりとりが愛らしい。親子でくっつきながら読むのに最高です。（27期　本多よしえ）

著作権保護コンテンツ



『こおりのむこうに』 新刊

作／かじりみな子
1,540円（偕成社）

末の弟が病気のようです。家族みんなでソリに乗り、病院に連れていくことになりました。ところが、外は一面の雪景色。まずはソリが通る道をつくらなければなりません。一家は病院にたどりつけるでしょうか。

『ぽぉぽぉ ぽぉって どんないみ？』

作／しんよんひ
1,760円（岩崎書店）

ウサトくんは、転校生のリスンと友だちになりたいのに、うまく言葉が通じません。リスンは「ぽぉ ぽぉ」と言うばかり。でも、いろいろな場面で、少しずつ「ぽぉ」の意味がわかりかけてきました。

『せかいで いちばんのばしょ』 新刊

作／ベトル・ホラチェック
訳／いわじょうよしひと
1,760円（BL出版）

自分たちが住む原っぱは世界でいちばんの場所だとみんなが言いますが、野ウサギはそれを自分で確かめようと旅に出ました。世界中の素晴らしい場所を見るつけ、野ウサギはあることに気づいたのです。

新刊

『ピンクいろのうさぎ』

作／たかおゆうこ
1,650円（講談社）

白いウサギたちの中に生まれたぴょんは、ピンク色。ある夜、ぴょんは同じピンク色のウサギを探す旅に出ます。そして、いろいろな色のウサギたちに出会いました。

こんなウサギも！

新刊

紙芝居 『うさぎとかめ』

脚本／やえがしなおこ
絵／やべみつのり、矢部太郎
1,540円（童心社）

歩くのが遅いカメをからかったウサギに、「それならどちらが速いか、競争しよう」とカメが言いました。イソップ童話を紙芝居で。

新刊

紙芝居 『ふゆのおともだち』

脚本・絵／礒 みゆき
1,540円（童心社）

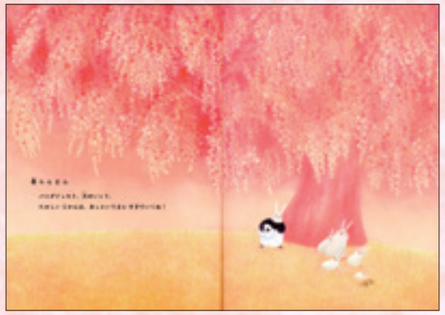
雪で一面が真っ白になった朝。キツネの子は雪をキュッキュッと踏みしめて、ウサギの子の家に遊びに行きました。でも、ウサギは風邪をひいてしまったようです。

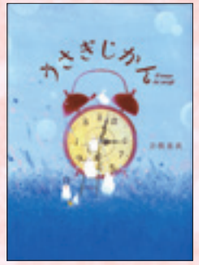
新刊

『やぁだ！』

作／マルリョケ・ヘンリヒス
訳／木坂 涼
1,650円（BL出版）

イヤイヤ期のウサギの子の返事は、なんでも「やぁだ！」。朝起きるのも着替えるのも、やってみればできるのにイヤがります。でも、ママの抱っこだけは「いいよー！」とかわいい返事が。





新刊

新刊絵本

2021年以降に出版された、
新しいウサギの絵本をご紹介します。

『うさぎじかん』

作／刀根里衣　1,650円（NHK 出版）

ウサギファミリーは全部で6匹。春の桜吹雪も、夏の海水浴も、一面黄色で埋め尽くされた秋のイチョウ並木も、みんなほんわか、ゆったりとした時間が流れています。

「うさぴょんのせいかつ絵本」シリーズ 新刊

『あなたのおなまえは？』
『こっちとこっち どっち？』
『とんとん「はいってます」』

作／きたやまようこ　各990円（あすなろ書房）

うさぴょんは何でもひとりでできます。ごはんも上手に食べます。お出かけするとき、着替えもできます。トイレのときも、ドアをたたいて中に人がいないのを確認してから、ちゃんとおしっこができます。

『うさぎタウンの おむすびやさん』

作／小手鞠るい　絵／松倉香子
1,430円（講談社）

「♪みんなで食べれば、ほっぺがいっぱい、おなかもいっぱい」。ななこさんは歌いながら、炊きたてのごはんでいろいろな形のおむすびをつくります。中には何を入れましょう。たくさんのおむすびができました。

『こうさぎ ぽーん』

文／麦田あつこ　絵／森山標子
935円（ブロンズ新社）

「いたずらこうさぎ ポンとはねて、ちいさなしっぽと まあるいおしり」。あっちこっちに飛び回る子ウサギをお母さんウサギもぽんと跳ねて、追いかけます。楽しい親子ウサギのかくれんぼです。

『おねぼうさんは だあれ？』

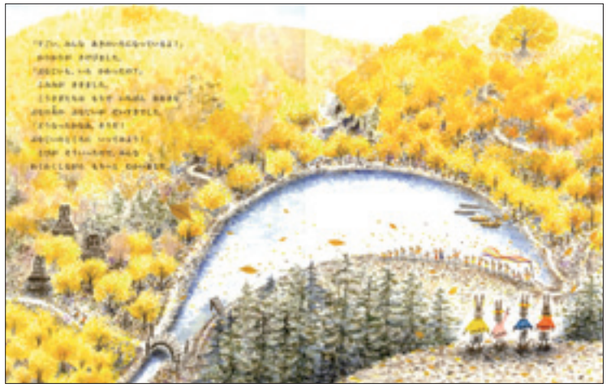
文／片山令子　絵／あずみ虫
1,540円（学研プラス）

森に春が来ました。ウサギのミミナちゃんは、冬ごもりから起きてこない友だちの家を訪ねて歩きます。クマやヤマネ、トカゲにカエル。ミミナちゃんがそれぞれの枕元に置いた花で、みんなは気づいてくれるでしょうか。

新刊

『こうさぎと おちばおくりのうた』

作／わたりむつこ
絵／でくねいく
1,760円（のら書店）



今日はウサギ町の秋祭りです。4匹の子ウサギきょうだいは、落ち葉行列に出かけます。「おーくれおくれおーちばおちば」という歌声は、湖を超えて向こう岸まで届きました。シリーズの4冊めです。

新刊 21年9月以降に発売され、はじめて小誌で紹介する絵本です。

岡田よしたかさん 作品を語る

関西弁でトークする食べものたちや、怖がりで愛嬌のあるオニさんなど、岡田さんの絵本の主人公は、みんな一生懸命で個性的。思いもよらぬストーリー展開の連続で、子どもだけでなく大人のファンも多いです。

もともとは、竹輪か昆布かキャベツでした

「『ちくわのわーさん』シリーズは、実はもともと、竹輪か昆布かキャベツでした。キャベツのきゃーさんは、せん切りになってとんかつの横に座ってるイメージで。目や口がなくても愛嬌があるのは、キャラクターに愛を込めてるからです（笑）。

『こんぶのぶーさん』で出てくる赤と紺の野球帽、これは懐かしの近鉄バファローズ（現・オリックス・バファローズ）です。とある小学校で『この帽子、どこのチームかわかる～?』と聞いたら、1年生でひとりおったんです。お父さんがファンやからって。驚きました！

最新作はおいもが主人公。昨年、『ぼくらはうまいもんフライヤーズ』の続編を出す気満々でいたところ、春ごろ急に編集者に言われたんです。〝ちくわのわーさん〟からちょうど10年です。秋にキャンペーンをして盛り上げたい〟と。それで秋の味覚で急遽つくりました。なかなか進まず、〝もぉ、11周年でもよろしいやん！〟と言ったのですが、なんとか行けました（笑）」

『ぼくらはうまいもん フライヤーズ』
1,078円（ブロンズ新社）
「途中でフライを揚げなおす展開は、ブロンズ新社の社長も喜んでましたね。読みきかせをすると、特に小学生に人気です。『つづき～、つづき～！』とねだられます。これから試合、プレイボール！ ってところで終わってるから。続きの話はもうできてます。みなさん、期待しといてね」

『おーい ペンギンさーん』
品切れ中（福音館書店）
「はじめての単行本、苦労してできた絵童話です。書店で背表紙を見たときはうれしかったですね。ラフを描いても、編集の人が『う～ん、う～ん、ダメですね』でやり直し、やり直し。『まずは、しっかりとしたストリーづくりを』と言われ、3年かかりました。腹巻きをしているワニのキャラクターが気に入って、このワニの続編を紙芝居でつくりました」

サイン本プレゼント Webまたはアンケート用紙へ

『ちくわのわーさん』
『うどんのうーやん』
『こんぶのぶーさん』
『おいものもーさん』
各1,078円（ブロンズ新社）
「最新作『おいものもーさん』は、性格が地味な主人公で、話もわりと地味。ドタバタもあまりないおとなしい絵本ですけど、そういうのもいいかなと。かわいい、かわいいと大人に評判みたいです」

紙芝居を絵本に変えるのに1冊まるまる描き直し

「『特急おべんとう号』は、もともと紙芝居でした。あのころ、いろいろ描いてもボツばかり。編集者になかなか相手にされなくて、もう勝手に自分で仕上げて紙芝居にしたろ！ と自由につくりました。そしたら、福音館書店の方が、『これ、おもしろいから、本にしましょうか』と。けれど絵本にするのに、大きさとかレイアウトとかまるっきり違うから、まるまる1冊すべて描き直し。めちゃくちゃ大変でした～。

収録されている『ねこ 大災難』は別で出版してもらえると思っていたら、『正直言って、岡田さんの読者はまだついてませんから、1冊にまとめましょう。2本では寂しいから3本立てに』となりました。リスクが大きすぎたんでしょうね（笑）。ちなみに、食べものの絵本が多いのでよく聞かれるのですが、僕自身が好きな食べものは、おすし（いちばんのネタはしめサバ）とカレー。嫌いなものはないですが、卵とそばのアレルギーです」

『特急おべんとう号』
1,650円（福音館書店）
「この中に収録されている『全日本おべんとうマラソン』は、かつて自費出版用に描いた『全日本オールヌードマラソン』を書き替えたもの。3話入ってこの値段、かなりお買い得です。『こんな値段でいいんですか？』と編集者に聞いたら、『いちばん安い紙で何とか……』と言われました。食べもの系絵本の最初となった記念すべき1冊です」

サイン本プレゼント Webまたはアンケート用紙へ

『とてもおおきなサンマのひらき』
1,210円（ブロンズ新社）
「僕は好きやねんけど、思ったより売れてない（笑）。昔すごくお世話になった編集者に、新刊を出すと必ず送っているんですが、『すごい絵本をつくってくれましたね』と喜んでくださいました。友人は、『途中から、先が読める』と……、吉本新喜劇と一緒!?」

少年野球チームが描かれている『オニのふろめぐり』の裏表紙。

『オニのきもだめし』『オニのふろめぐり』
各1,320円（小学館）
「絵本が完成したあと、絵に関してだいたいは『もう少しこうしたらよかったかな』と思うんですが、この2冊はそれがないです。納得できるものになりました。少年野球チームの監督は女風呂にいて、声だけ出てくるんですが、背表紙に登場させました。まわりの子たちの背番号も、わかる人はわかる！ 31は阪神タイガースの掛布。あとは、バース、岡田、田淵、江夏。ストーリーと関係ないところは、好き勝手に遊ばせてもらってます」

「作品を通して伝えたいメッセージなどは……特にありません。自分がおもしろいことを表現しています。読みきかせは、難しく考えないで、基本的に大きな声で、気持ちに余裕を持って読んでほしいですね」